

## 松本市森林再生市民会議 第3回運営委員会 議事録要約書

日時 令和4年11月28日(月)

午後7時00分～9時00分

場所 松本市勤労者福祉センター3階  
3-1会議室

### ～ 議事概要 ～

#### (1) 第1回イベントの報告

- 以下の内容で実施。
  - ・日時：令和4年11月26日(土) 9:30～12:00
  - ・場所：松本市美鈴湖もりの国オートキャンプ場と周辺森林
  - ・参加者：6名
- 安全管理面で配慮が足りない点があったため、第2回イベント以降に反映する。
- 事前のスタッフ間での情報共有が大事で、イベント開催前には担当委員以外にも早めに集合して情報共有するなどの対応を図ったほうが良い。
- 一律に参加人数を設定するのではなく、イベントごとにその内容に適した参加人数を設定したほうが良い。
- イベント中に取材が入るといった不測の事態が生じたため、メディア対応する時間を明確にしたほうが良い。
- 参加者向けアンケートを作成して、今後のイベント内容検討に向けた声を収集する。
- 今後のイベントでは、サービスの要素とディスカッション的要素を区分・整理して取り組んだほうが良い。

#### (2) 第2回イベントの準備状況

- 場所は岡田財産区が所有する森林。現地見学のほか、伐採から枝払い・造材までのデモンストラレーションもできないか調整中である。木材価格に関する説明等も予定。
- 参加者の声だけでなく、委員も交えた雑談の内容も記録しておくことが重要。
- 広報について、呼び掛ける方法や対象の再考が必要。

#### (3) 第3回イベント

- 以下のよう決定。
  - ・内容：木材利用の方向性で屋内施設の見学を検討(例：波田地区の木質バイオマスボイラー等)
  - ・担当委員：三木委員長、小穴委員、大田委員
  - ・日程：2月頃(3月予定のフォーラム前に設定)

#### (4) フォーラム

- 森林長期ビジョン策定に向けた市民会議の進め方の方向性を今一度整理しておく必要があ

るのではないか。以下のような方向性が考えられる。

①ビジョンを策定するというゴールに向けて、各回のイベントやフォーラムはどういった役割を持つのかということをも 3 年分まとめて最初に設計した上で、それぞれのイベントやフォーラムで取り組まないといけない項目を整理するという方向性（逆算型のアプローチ）

②各回のイベントを運営していく中で成果を整理し、イベントごとの成果をまとめた形でフォーラムを開催する。こういった形でイベントとフォーラムを繰り返しながら、徐々に学びの場を広げ、この成長モデルの中で森林長期ビジョンが策定されていくという方向性（積み上げ型のアプローチ）

- 森林長期ビジョン策定後も、市民も主体的に取り組んでいただける我々の仲間として取り込んでいく流れが必要。
- イベント 3 回がフォーラム開催に繋がるという流れを大事にし、それぞれのイベントの担当委員から以下のようにフォーラム担当委員を決定。
  - ・担当委員：菊地委員（第 1 回イベント担当）、永原委員（第 2 回イベント担当）、三木委員長（第 3 回イベント担当）
- フォーラムの開催日時と場所を以下のように決定。
  - ・開催日時：令和 5 年 3 月 1 8 日（土）午後
  - ・開催場所：あがたの森公園 講堂

(5) アンケート

- 担当委員を以下のように決定。
  - ・担当委員：三木委員長、清水副委員長、小山委員(案)、香山委員

(6) 第 4 回運営委員会日程

- 第 3 回イベント内容の最終確認、フォーラムの準備状況の確認も考慮し、第 3 回イベントの少し前とする。第 3 回イベントの日程をみながら調整する。

## 開会

(市)

只今から第3回目の運営委員会を開催する。土曜日(11/26)には第1回イベントが開催され、担当委員を中心に準備並びに当日の運営を行っていただき、お礼申し上げます。新聞等にも取り上げられ、市民会議の活動について市民にも触れる機会となった。参加者の様子を見てみると満足していただけたのではないかと思われ、良かったのではと感じている。色々課題も出ており、2回目以降のイベントに繋げていければと思うので、よろしく願いしたい。それでは、三木委員長からご挨拶願いたい。

(三木委員長)

今回は第1回イベントの開催からあまり日数が経っていないということもあり、委員の皆さんと色々議論を深められるのではないかと考えている。前回はお互いの顔が見えにくい座席の配置だったため、今回はお互いの顔が見える配置にした。今日は決めることも多いため、議論しながら時間通りに終了できればと思うので、ご協力をお願いしたい。まずは配布資料について事務局から説明願いたい。

(市)

配布資料について確認させていただく。

※配布資料の確認(省略)

基礎情報の整理に関する資料については、環境アセスメントセンターから補足説明をお願いしたい。

(環境アセスメントセンター)

市から各種データをご提供頂きながら、松本市の森林の状況や木材生産と利活用の状況等といった森林ビジョンを作成する上で必要となる基礎情報を整理している。今回配布した資料は、まずはその一部ということでご理解いただきたい。

※資料の説明(省略)

### (1) 第1回イベントの報告

(三木委員長)

第2回運営委員会では松本市の他の関連委員会にも出席すると申し上げたが、今回の第3回委員会までの間に松本平ゼロカーボンコンソーシアムの会議と街なかのグリーンインフラに関する会議、それから、松本市地域づくり実行計画に関する市民会議に参加して情報収集しているところである。それでは会議事項に進んでいきたい。まずは第1回イベントの報告を聞いた上で意見交換できればと思う。資料の説明をお願いしたい。

(環境アセスメントセンター)

第1回イベントの開催概要について報告させていただく。

※資料の説明(省略)

(清水副委員長)

私が所属している森林風致研究所の理事長も参加しており、発言した意見について説明がなかったのできちんと説明してほしい。発言した内容には森林の来歴など重要な部分が含まれていたため、きちんと委員に伝わるよう配慮願いたい。

(環境アセスメントセンター)

以後、十分注意し説明させていただく。

(小穴委員)

安全管理の面で、歩道に落下している樹木の枝や石は、当日でも良いので事前に除去しておいたほうが良かったかもしれない。先頭を歩く案内役も安心して説明できるというメリットもある。

(三木委員長)

大人数の一般参加者がいる場合は、安全管理は確かに重要である。役割分担については第2回委員会に向けて考えていきたいと思う。

(渡辺委員)

7点ほど手短にお伝えしたい。

- ①事前にスタッフとの情報共有が必要。安全管理面での手順や体制の確認、参加者へのアナウンスなど。
- ②参加者の人数は、山の中を歩いたり現場を見学したりという状況に配慮した場合、10～15人程度の方が良いのではないかと思った。参加者が30人だとスタッフの目が行き届かない可能性が考えられる。
- ③受付のシンシュウヤタイについて、悪天候時にも対応できるようにするため、できれば屋根を購入いただきたい。「受付」と書かれたプレートを付けると分かりやすいかもしれない。
- ④当日の流れや注意事項等の情報共有のため、イベント担当以外の委員もできれば1時間ほど前に集合してはどうか。参加者に委員が質問された際に答えられないのでは良くないと思う。
- ⑤新聞社等の取材関係者との事前打合せが必要。フリートークのところで取材が入ってしまい、しばらくディスカッションにならなかったため、取材の時間帯を明確にする等の配慮が必要だったと思う。
- ⑥参加者向けのアンケートができるのであれば、ラフな案を作ったので後で見ていただけたらと思う。今後のイベント内容検討に向けて声を拾えるようであれば有効かと思う。
- ⑦イベントだけで森林長期ビジョンに関する市民の声を拾うのは不十分だと感じた。例えば、マツ枯れがひどい状況の地区の自治会への聞き取りやワークショップの実施等も必要ではないかと感じた。

(小穴委員)

スタッフの紹介は初めに行った方が良かったか。一目でスタッフだと分かる服装ではないので、

参加者の方々は「この人誰？」という感じになって、よく分からなかったのでは。

薪割りでは経験が全くない参加者もいたため、事前にデモンストレーションがあっても良かったか。安全管理の面でも説明しやすいと思う。

(香山委員)

イベントなのか市民会議なのか、切り分けをもう少し考えたほうが良いかもしれない。イベントは基本的にサービスであり、市民会議ではディスカッションを重視することになる。この点に配慮すると、「森林について話し合いをする場」としての組み立てを2回目以降のイベントでは意識したほうが良いのではと思う。

(大田委員)

森林の散策では、立ち止まって落ち着いてもう少し説明をじっくり聞きたかった。また、市民タイムスでの広報記事を見た方から「親子で参加できるイベントがあるといい」という要望を頂いたため、親子で参加できるイベントも検討できればと思う。

(三木委員長)

サービスの要素とディスカッション的要素を1つのイベントで両方兼ねるのは難しいかもしれない。今後は両方の要素それぞれでもイベントを実施できていくと良いかもしれない。

(菊地委員)

動画の編集時間については30～40秒が適切かと思うが、できればこの場で決を取りたい。

(三木委員長)

飽きずに見られる時間の限度を考慮して、30～45秒で編集いただいてはどうか。編集したものを委員で確認して2回目のイベントに反映してはどうか。

(菊地委員)

第2回イベントの告知に向けて、第1回と第2回のイベント間の日数があまりないことから、動画について市の公式チャンネルをどのタイミングで活用するのが良いかお聞きしたい。また、第2回以降のイベントでも動画を撮影するのかお聞きしたい。

(市)

第1回イベントでは、随意契約で予算内で収まった。通常だと入札契約ということになり、契約の時間的猶予を考えると、第2回イベントの動画撮影を専門業者に発注するのは難しい状況である。撮るとすれば自前で撮影することになる。

## (2) 第2回イベントの準備状況

(三木委員長)

第2回イベントの準備状況について説明願いたい。

(永原委員)

場所は岡田財産区が所有する森林になる。安曇野市方面に向かう大口沢線の途中にあり、サンリンのソーラー発電施設が隣接している。市役所からバスで20分くらいの所要時間のため、比較的市街地から近い場所になる。現場は松本広域森林組合の直営で作業しており、イベント開催日は土曜日で本来であれば休日に当たるが、支所長にお願いしてイベント当日は作業を実施していただけるかもしれない。当日は支所長である清水氏に来ていただき、こういった作業を実施しているか説明を依頼している。また、森林所有者からのお話ということで、所有している岡田財産区から誰か来ていただければ、今後こういった山にしていきたいとか、これまでこういった山として利用されてきたかといった来歴の話等があれば非常に興味深いと思う。ただ、イベントの前の週に財産区で別の作業が予定されており、イベント当日はその予備日となっているため、予備日での作業となると、森林所有者からのお話も清水支所長から代わりに説明してもらう流れになるかもしれない。

次に現地については、恐らく土場に材木が搬出されているため、バスが土場までは入れないと思う。そのため、土場の手前で降りて徒歩で移動していただくことになると思う。事前にカラマツが植栽されているエリアを通過してから今年度作業しているアカマツ林の伐採・地ごしらえ箇所を見学するという流れになるかと思う。作業道は尾根に配置してあるため比較的緩やかで広い場所を歩けると思うが、ヘルメットの着用等安全装備はしっかりしていただくのが基本になる。イベント前から作業は進んでいるため、面積が2.6haと狭く伐採が終わってしまっている可能性もある。ただ、できれば伐採から枝払い・造材までの一連の流れを見せていただけないか、先方に打診しているところである。

現地で作業員を囲んでのフリートークという案もあるが、作業員の手を止めてもらう訳にもいかないのでは、私と小口委員で質問を受けてお答えするような形にしたいと考えている。普通に歩くだけなら1周30分だが、所々で説明しながら、合わせて伐採作業のデモンストレーションも含めるとすると1時間かそれ以上になると思う。小山委員が体調を崩され打合せが出来ていないため、小山委員が担当予定の大会議室での座学をやめて現場で済ませるという選択肢も考えている。雨天時の対応については、まだ検討していない状況である。

(清水副委員長)

天気が悪ければ中止するという選択肢も考えられないか。実際の林業現場では天気が悪ければ作業は実施しない。

素材生産はどうして4mで伐るのかや木材価格に関する話などがあると参加者に興味を持ってもらえるかもしれない。

(永原委員)

カラマツ、アカマツ、スギ、ヒノキ等の単価の資料なども準備したい。現地には丸太も出ていると思うので、それを見ながら価格の話もしたいと思う。

(三木委員長)

第1回イベントを踏まえてこういった点を準備してほしいなど、他の委員から何かご意見があればお願いしたい。

(香山委員)

参加者の方々の意見をきちんと拾っていく体制が必要だと思う。事業委託を受けている業者でもとりまとめを行っていただくのだが、それだけでは足りないというか、どんな意見や考え方があったのかを委員が知っていくということも大事だと思う。昨年の実行会議の中でも「雑談が大事だ」ということを話した。参加者の声だけではなく、委員も交えた雑談を拾っていくという視点が大事ではないかと思う。イベント担当委員はその余裕は無いので、担当ではない委員が意識して雑談の内容を拾ってほしいと思う。

(三木委員長)

12月10日は1時間以上屋外にいられるのか心配。吹きさらしの環境で1時間以上いるのは難しいかもしれない。雨天時だけでなく強風時も退避できる準備をしておいた方が良くもしい。

(渡辺委員)

参加人数について、松本市のホームページでは定員が30人となっているが、山の中で30人は少し多いかもしれない。皆さんはどのように思われるか。

(香山委員)

山の中のイベントを色々やった経験からすると、山の中では20人を超えると統一感がなくなる。もし参加者が多いなら、サブリーダーがいないと難しい。

(三木委員長)

参加メ切に向けてどう広報するか。委員が口コミで人を集めるのは市の事業としては如何かと思うところもある。市の方からこういうところに声がけして欲しいということを書いていかないと、何となくではなかなか人が集まらないのでは、と想像している。

(清水副委員長)

信州大学の学生はどうか。

(香山委員)

松本市在住・在勤という制限を緩めてみてはどうか。ただ、誰でもいいという訳にもいかないので、「松本市の森林の将来に関心がある人」といった緩め方ではどうかとも思う。

(三木委員長)

高校生も候補に挙げられると思う。広報の対象については、再度、市の方で検討してもらったほうが良いか。

(清水副委員長)

ちょっとしたお土産を準備しても良いかもしれない。

(三木委員長)

第1回と第2回のイベントに共通する事として、参加者の方々にこれからも意見を伺う対象として引き続き関わっていただくと同時に、仕組みも考えなければならない。何か良いアイデアがあればお聞きしたい。

(渡辺委員)

広報について市役所の方にお聞きしたい。松本市の公式LINEでの広報は12/10までに間に合うのか。

(市)

LINEではすでに広報済みである。

### (3) 第3回イベント

(三木委員長)

次に、第3回イベントについて内容と担当委員を決めていきたい。日程については担当委員で検討していくことになると思う。内容については、私からは木質バイオマスの施設（波田地区のバイオマスボイラー等）の見学を提案する。1～3月に屋外でのイベントは難しいため、室内の方が良いと思う。他にも何か案があればお聞きしたい。また、担当委員の立候補があればお願いしたい。

(香山委員)

寒い時期なので室内の方が良いと思う。木材利用の観点から地元材で造られているような施設があると良いが、松本市にそのような施設はあるか。

(三木委員長)

近隣の市町村だと朝日村役場など思い浮かぶが、松本市以外に行く訳にもいかない。木材利用の方向性でなるべくインドアでいくつか候補を検討してみるというので良いか。

(菊地委員)

良いと思う。

(三木委員長)

移動距離の問題もあるが、予算的にバスを借りることは可能か。

(市)



可能である。

(三木委員長)

担当委員について、まず私は担当させていただきたいと思うが、あと2名程どなたか立候補はないか。

(大田委員)

何をやっていいかわからないが、お手伝いできればと思う。

(小穴委員)

やれることあれば担当させていただく。

(三木委員長)

それでは、小穴委員、大田委員、私の3名で担当させていただくこととする。実施時期は3月に予定しているフォーラム前と考えると、2月くらいを目処に計画していきたい。

(4) フォーラム

(三木委員長)

日程については、施設を予約する都合上、事前に委員の方々に対して調整させていただいた。内容については、1年目のフォーラムをどういった形でやっていくのか、ご意見を頂ければと思う。例えば、外部から講師を呼んで講演していただく形を取る場合、予算はあるとのことである。講演会が良いのか、市民の皆さんから意見を挙げていただく会議の場とするのか、もしくは両方を組み合わせるのか、色々ご意見頂ければと思う。

(香山委員)

最終的には3年目にフォーラムを開催して松本市の森林長期ビジョンが策定される形になるが、そこから逆算して、来年と今年のフォーラムを考えていくことになると思う。今年是最初のフォーラムで、市民会議自体の知名度も低いことから、実質的に松本市民に市民会議をアピールしていく要素が強いと思う。初めて来る方々がほとんどで、森林長期ビジョンについて意見を出してほしいとお願いしても難しく、市民に呼びかけていく要素が強い。3回のイベントの中から出てきた色々な意見を広く市民に紹介していくという部分もあるが、少し人寄せ的な要素を持たせたほうが良いのではという印象を持っている。そういう点では、何か市民の方々に広く関心を持っていただけるようなメインの話者がいると望ましいのではという気がしている。

(三木委員長)

今日欠席されている小山委員にもお聞きしたところ、集まった方々が言いたいことを言う場にできればどうかと仰っていた。たしかにそうかと思う。ただ、今年の会議からも言われていることであるが、市民に対して何か具体的な意見があるかとお聞きしても、なかなかまだ自身の意見を持てる段階にないのかなという気がしている。2年目、3年目にそういった意見を聞き出せる状

況に進めていくのが大事かと思っている。

(清水副委員長)

伊那市や飛騨高山は結構活発に活動している。どうやって盛り上げているのか、最初から市民の方々は関心があったのか、どのように予算取りしているのか等、聴くことができればと思う。

(渡辺委員)

まだアイデアベースではあるが2つほどある。1つ目は、先日大町のフォーラムに参加した際、体育館でまずは講師のお話をお聞きした。伊那市と飛騨市の事例を聞いた後、グループディスカッションを行った。参加者は約80人で10グループくらいに分かれて議論をする場が設けられた。このフォーラムは最初から参加者を募って応募いただいた方々で開催する方式であった。

もう1つは、昨日(11/27)大町市のイベントに参加して、どちらかという人寄せ的なイベントであった。おいしい食べ物が用意されていたり、ワークショップで箸作りなども体験した。木で工作できるようなブースもあり、会場の四隅には話ができるスペースも設けられていた。このイベントは当日参加も出来るような緩やかな形であった。

(大田委員)

マツ枯れに関しては、トークセッションのような形で組み込んでほしいと思う。フォーラム形式の場では、マツ枯れに関して周知しやすいのではないと思う。

(菊地委員)

全体設計として、そもそも森林再生市民会議は3年間掛けながら森林長期ビジョンを策定するための場であり、その会議のスタイルとしてイベントやフォーラムといった形をとるというふうに認識している。ゴールは森林長期ビジョンが策定されることであり、そこに向かって3年間イベント3回、フォーラム1回という構成の繰り返しで、果たしてこのゴールにたどり着けるのかといったところを感じる。予算の都合上今から大きくやり方を変えることは難しいと思われるが、難しいなりにイベント・フォーラムはビジョン策定に向けてそれぞれどういった役割を果たすのかといった、根本的な部分の全体設計について今からでも議論を深めた方がいいのではないだろうか。

今の状況は第3回イベントや今年度のフォーラムなど目の前のタスクをどう処理するのかという点に囚われている部分が自分を含めてあると思っている。全体設計、つまり、市民会議をイベントとフォーラムというスタイルを取りながら3年掛けて取り組み、その成果としてビジョンを策定するというゴールに向けて、各回のイベントやフォーラムはどういった役割を持つのかということも3年分まとめて最初に設計した上で、それぞれのイベントに取り組みないといけないのではないかと思っている。だからどうするのかとって具体的な案を現状では持ち合わせていないものの、現時点で感じている違和感であり課題である。

(香山委員)

昨年実施した森林再生実行会議の提案書にそのあたりのことが書かれている。まず、イベント

については 10 回である。10 回のイベントの作り方は、運営委員が考えるもののほかに公募する回があっても良いという考え方が示されている。つまり、ここにいる委員ではなく、ここにはない松本市民で関心を持っている方々からの提案も取り込んでいくということである。いかに幅広く市民と森林を繋ぐことができるかというデザインになっている。イベントを運営していく中で担当する委員は非常に勉強することになる。お互いに議論して考えを深めることとなり、イベント実施後の振り返りでも意見を共有し、それらを整理してテキストとしてまとめた形のものでイベントごとに出てきて、それをまとめた形でフォーラムを開催する。こういった形でイベントとフォーラムを繰り返しながら、だんだんと学びの場を広げていって松本市民にもコミットしていただけるようにする。この成長モデルの中で森林長期ビジョンが策定されていくという流れである。

なぜこういった形になったかという、ビジョンを策定するという取り組みは実はとても大変で、高度な専門家が真剣になって考えても難しいくらいである。しかしながら、そうやって作られたビジョンは専門家以外にはなかなか関心を持ってもらえないという現実があり、全国でもそういった事例が多い。そうではない形で、高度ではないかもしれないが、市民自身が自分達のものであると実感できるようなビジョンを策定していくことを重視したいという思いの中でこういった形が考えられた。

今年はスタートが遅く、この運営委員会でも 1 回目の時にこのような話をするのではなく、委託業者の選定の議論になってしまったので、今こういう議論をしているのはちょうど良いと思う。3 回目のイベントまで十分時間があるので、イベントやフォーラムをどういった形で進めていくのか、ようやくきちんと議論できるのではないかと考えている。

#### (菊地委員)

イベントの位置付けが市民と森林の接点を多様に作ることであり、そこから聞こえてくる市民の森林に対する感覚、意見、声を拾い上げていくことがそれぞれのイベントの役割で、その声の中からフォーラムで話し合いたい議題や論点が見えてきて、それをフォーラムの場で共有しつつ議論するといったことなのかと解釈した。

であれば、それぞれのイベントに参加する中で市民が実際に森林に接して、何を感じたか、ということをおある程度言語化することが必要だと感じる。イベントでは参加者や委員が感じたことをなるべく早く感覚が新鮮なうちにアウトプットすることが大事なと思う。そのアウトプットされた要素を持ち寄って、フォーラムの内容を検討する時間が第 3 回イベントの後に必要になってくるのではないかと考えた。

#### (清水副委員長)

第 1 回イベントの開催結果とメッセージでの委員の方々の振り返りをみていると、市民の方々の希望は森林計画というよりも緑地計画である。今回配っていただいた参考資料の地図を見ると、森林に関連する施設が偏っていることが分かる。緑の基本計画では具体的なゾーニングなど緑地計画的なことがあまり書かれていない。小径造り等は緑地計画で、緑地計画は都市計画に含まれている。森林を緑地に編成するといったグリーンインフラの視点は必要。具体的な空間を造るのはとても大事で、これ抜きでビジョンの策定は考えられないというのが私見である。

市民が要望したものを実現するにはプロの力がないと前に進まない。登山道は昔から固結度の高い場所を選んで造ってあるが、林業の道は技術がないと造るのは難しい。市民が要望する線形等がプロの目から見て大丈夫かどうか、3回のイベント結果をまとめて「造る」という具体的なことをやってはどうかと思うが如何か。「造る」というのはとても楽しいことで、委員の中にもプロがいっぱいいるのに造らずに話しているだけでももったいないと感じている。緑地計画の中で造る。森林計画は別のコアなプロの世界観があるので、全然違うということを示さなければならない。林業技術者が市民から憧れの目で見られる事態にならないとビジョンは作れないと思う。ご一考いただきたい。

(三木委員長)

フォーラムを1年目、2年目、3年目と開催するが、フォーラムにせよイベントにせよ我々の仲間を作っていく場所なのではないかと思う。長期ビジョン自体は我々が文章を書けば何かしらの形にはなるが、その後ビジョンで策定したことがきちんと実行できるのかということを考えて、市民が全く関心を持たなければ「立派なビジョンを作りました」ということで終わってしまう。そうではなく、市民が関心を持ってビジョンで策定したことの取り組み状況を見ていかなければならないし、ビジョンで何がしかの空間を造るということを書いたなら、造っただけできちんと市民が利用してくれなければ意味がない。

ビジョン策定後の取り組みを確実なものとするというのは、我々がこの市民会議で募った仲間が取り組んでいくということなのではないか。今フォーラムの議論をしているが、「ありがたい話を聞いて良かったね」だけで参加者が帰るのでは意味がなく、参加していただいた市民の方々を我々の仲間として取り込んでいくことができたらいいと思っている。その設えとして、まずは人が来ていただける内容でないといけない。また、今回のフォーラムをきっかけとして、2年目、3年目のイベントを任せられるような仲間を作っていくような流れにできればと思う。フォーラムの具体的内容をこの場で決めるのは難しいと思うので、担当委員を決めて詰めていかなければならないと思っている。

(小穴委員)

フォーラムへの参加者として、例えば松本第一高等学校の中に総合学習学科があり、地域の様々なことを学ぶ中で、学校の窓から生徒が見たマツ枯れがきっかけとなって、生徒をマツ枯れの現場へ連れて行ったことがある。中には非常に関心を持った生徒や先生もいて、そういった方を通じてフォーラムへの参加を呼びかけるというのはどうか。ほかに信州大学附属中学校の3年生や信州大学の学生・留学生、こういった取り組みに熱心な団体や町会長にも呼び掛けてみてはどうか。

(三木委員長)

具体的に「こういう人を呼びたい」という想定も大切だと思う。

(香山委員)

フォーラムの具体的イメージでいうと、固定席ではない場所でグループに分かれたグループワ

ークは広い講堂でも可能である。1 グループは小さくして、全体を統一するようなプレゼンテーションを行った後に、それをベースにしてグループワークを行うという形が参加者の参加意識を高めるには良いと思う。絶対に来て欲しい人は一本釣りで声を掛けることが大事で、大町のフォーラムではこの形を取った。声を掛けた方がさらに仲間を連れてきてくれたということもあって、あっという間に 80 人という大人数の参加者が集まった。

(三木委員長)

会場の構造はどのようになっているのか。

(市)

会場のあがたの森公園の講堂については、体育館のようなイメージをもってもらえると良い。何もなく広く平坦な状態で、若干小規模である。

(清水副委員長)

市民の多くは自分の里山を持っていると思う。例えば今回は里山などターゲットにする場所を明確にすれば、参加者も絞られてくるのではないかと思う。要素の違う場所を混ぜてしまうと分からなくなる。場所を明確にするのは大事だと思う。

(小穴委員)

資料として配布された「松本まるごと遊歩道マップ」には、私の所属団体の活動場所の浅間温泉近辺のルートも紹介されており、会場の候補場所として挙げていただけるのなら全面協力できる。

(清水副委員長)

里山に関して共通情報が必要かと思う。ターゲットを絞るにはどの場所について語るかということがとても大事になってくる。

(菊地委員)

自分の経験から情報共有させていただくと、松本市総合計画でも同じように市民会議を設けて計画が作られていて、私も委員を担当していたが最後にあがたの森公園の講堂でフォーラムを開催した。その時は山崎亮氏（コミュニティデザイナー）を講師にお招きした。山崎氏の講演がまずあって、それからこのフォーラムの開催時点で総合計画案が出来ていたのでその発表があった。その後山崎氏にファシリテーターになってもらってワークショップを行ったので（1 グループ 10 人で 6 グループ）、ワークショップの実施は可能である。

場所での区切りも必要だと思っており、市民とは誰かという話を前回の委員会で XYZ 軸を用いて説明したが、あれを思い出しつつ話をすると、3 年目で作りたい森林長期ビジョンが具体的な構成としてどういう章立て、あるいは項目で作られるイメージなのかということをもっとこの時点で描いてみてもいいのかもしれないと思った。その項目を実際につけていくに当たって、3 回あるフォーラムでどこをどうカバーすればいいのかを考えた時に、場所でもテーマでも良いが、3 回

あるそれぞれのフォーラムで何をカバーしていけば最終的にビジョンの項目立てとして成立するのか、逆算のアプローチもあるのではないかと思います。

(清水副委員長)

今回配っていただいた基礎資料をしっかりと読み込んで現場（既存のもの）を知ること、勉強することが大事だと思う。何が要るのか要らないのかという点も話し合いの俎上に上がるべきだと思うので、とにかく情報を集めて要らないものは後から削っていくという話し合いが必要と思う。議論をする際にも非常に役立つと思う。

(菊地委員)

どうアプローチしていくかという筋道は決めたほうが良いのではと思う。ビジョンをこういう項目立てで作りたい、だから3回あるフォーラムはこんなテーマで、それを受けて1年目、2年目、3年目のそれぞれのイベントではこういうことが必要といったような、一番大きなビジョンのところから要素分解していったイベントに落とし込んでいくというのが一つのアプローチ論だと思う。

もう一つは、やっていく中で徐々にフォーラムのテーマを決める。ビジョンについても積み上げ式で出来上がったものを完成形とするのであれば、今の段階でビジョンの項目は立てられないので、今年度3回のイベントをやってみてフォーラムはこのテーマで行くという流れでも良い。

(三木委員長)

ビジョンを書くとなると、必要最低限書かなければならない項目を列挙することか可能だと思う。その視点だけだと漏れる項目は必ずあって、その項目をきちんと入れていかなければならない。その項目は我々自身が気付くことが出来ないものもあるかもしれないと思っている。

「この項目についてどう思いますか」という流れで話し合うことと、「他にもっと決めるべき項目はありませんか」という流れで話し合うことの両方をやっていかなければならないと思う。

(香山委員)

1回目のフォーラムはあまり高度な話にすると誰も付いて来られなくなる。だから、最初はすごく敷居を低くして回を重ねるごとに高度になっていく感じが良いのではと思う。

(三木委員長)

どのようなやり方をするにしても担当を決めなければならない。私は担当したいと思うが、具体的な内容のアイデア出しを手伝っていただけの方が必要と思っている。

(菊地委員)

イベントについては、それぞれのイベントの専門性に依じて担当委員を決めるやり方が馴染むと思ったが、フォーラムはどうなのか。委員全員で作っていくイメージがあったが。

(三木委員長)

もちろん委員全員で作っていくことになるが、原案を考えるコアメンバーは必要かと思っている。

(菊地委員)

イベントが3回あってフォーラム開催という流れでいくと、各イベントから一人ずつという形で委員長と一緒に作るというのは考え方として一つあるかと思う。他にもフォーラムということで、イベントの担当委員以外がご一緒するという考え方ももちろんある。何れにせよ私は引き受けても良い。

(三木委員長)

よろしくお願ひしたい。イベント3回がフォーラム開催に繋がるという設えは大切だと思う。それぞれのイベントの担当委員から、フォーラムに反映させたいイベントの内容を反映させていくという方向性で進めていきたい。第2回はどなたが担当されたか。

(永原委員)

現場サイドからのアプローチしか出来ないと思うが、引き受けたいと思う。

(5) アンケート

(三木委員長)

市民に対して今年度か来年度の頭にはアンケートをやらなければならないが、まず項目の原案を作って委員の皆さんにお見せしたいと思っている。漠然とアンケートを取っても意味がないので、ビジョンに繋がるような項目をどのように作っていくのか、それからアンケートを通じて市民会議を周知し仲間を作っていく流れにしたい。作成は研究分野に携わっている私と清水副委員長、小山委員、香山委員に加わっていただき、実施は環境アセスメントセンターにお手伝いいただきたい。それでよろしいか。

(委員一同)

異議なし。

(6) 第4回運営委員会

(三木委員長)

第4回運営委員会が今年度予定されている。この日程について事務局から説明をお願いしたい。フォーラムに関しても合わせてお願いしたい。

(市)

調整の結果、フォーラムは3月18日(土)の午後、あがたの森公園の講堂で開催とさせていただきます。

(委員一同)

異議なし。

(市)

第4回運営委員会については、2月頃を予定しているがよろしいか。

(菊地委員)

第3回イベントやフォーラムとの関係で、どのタイミングで実施するかだけ決めておいた方がよいと思う。

(三木委員長)

第3回イベントの少し前が良いかと思う。イベント内容の最終確認ができ、フォーラムの準備で足りない点も補えると思われる。フォーラム直前だと難しい。

(菊地委員)

では、第3回イベントの日程を決めていただき、その前に会議日程を調整していただくという流れで良いかと思う。

(委員一同)

異議なし。

閉会

(市)

長時間に渡るご議論にお礼申し上げます。今後事務局で調整することもあるが、メッセージ等を通じて委員の皆さんと情報共有しながら進めていきたい。アンケートについては、イベントやフォーラムだけでは拾えない市民の声を補完する意味合いもあると考えている。色々な市民の意見を拾っていけるようなアンケートにできればと考えているので、ご協力のほどよろしく願いしたい。それでは第3回運営委員会をこれで終了とさせていただきます。大変お疲れ様でした。